

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25016

学校名：みどり小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析
体力・運動能力 <男子>	全国平均を上回った種目 反復横跳び・ソフトボール投げ 全国平均と同程度の種目 上体起こし・20mシャトルラン・立ち幅跳び	全国平均を下回った種目 握力・長座体前屈・50m走	・持久力の面では、(男子に関してではあるが)比較的充分な力が備わっていると見られる。ソフトボール投げに関しては、休み時間の「ドッジボール」に参加する児童が男女ともに多いことも影響していると考えられる。
体力・運動能力 <女子>	全国平均を上回った種目 なし 全国平均と同程度の種目 握力・立ち幅跳び・ソフトボール投げ	全国平均を下回った種目 上体起こし・長座体前屈・反復横跳び 20mシャトルラン・50m走	・握力、体の柔軟さ、短距離の走力に関しては課題が見られる。また、女子の記録が男子に比べて比較的充分とは言えないことから、女子の体力向上の機会を増やしていくことも課題と言える。
運動・スポーツへの意識、運動習慣	「運動やスポーツをすることが好き、やや好き」と回答する子どもの割合 全国：男子 93.4% 女子 85.8% 本校：男子 97.1% 女子 93.3%	1日(平日)に4時間以上テレビやゲーム機、スマートフォン等の画面を見ている子どもの割合 全国：男子 27.3% 女子 22.8% 本校：男子 40.0% 女子 37.9%	・運動やスポーツが好きなお子が多く、これからも三間(時間・空間・仲間)を大切にしながら、育てていく。反面、スクリーンタイムが長い子どもが非常に多い。生活習慣の見直しの為に、家庭との連携が必要である。

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組	<p>◇みどりスポーツフェスタ 自分の目標に向かって練習に取り組むとともに、仲間と共に運動する楽しさを味わう機会を設ける。</p> <p>◇縄跳び運動 授業の中で「縄跳び運動」に取り組み、子どもの敏捷性の向上を目指す。なわとび大会等と連動しながら、意欲を高め、成長を実感できるようにすることで、粘り強く取り組むことよさを感ぜさせる。</p> <p>◇ゲストティーチャー・外部講師 アスリート先生などの事業を活用し、体育や保健の授業の質の面での充実を図り、「運動が好き」だという実感を生む。 また、水泳やスキーでは専門家の指導技術を教師が学び、日常の授業での指導に還元することで、よりよい授業を目指す。</p>	<p>◇ロング休み時間 教室とグラウンドの移動に時間を要するため、休み時間を室内で過ごす児童もいる(特に冬場に顕著)。週に一度、通常よりも休み時間を長く設定し、グラウンドでの遊びをし、運動機会を増やす。</p> <p>◇グラウンド・体育館の場づくり 遊びの場とできる遊びの設定をすることで、安心して体を動かすことに没頭できるようにする。そして、「運動することが好きだ」という体感を大切にする。</p> <p>◇縄跳び運動・ドッジビー 前期は短縄、後期は長縄と、年に2回の縄跳び記録会(仮称)を設定し、日常の縄跳び運動に対する意欲を高め、自身の体力の向上を確かめる機会とする。また、運動が苦手な子どもでも体を動かす遊びに参加しやすくなるよう、ドッジビーなどの遊具を活用する。</p>	<p>◇保健教育・性教育 養護教諭を中心に「保健教育・性教育年間計画」に基づき、年間を通して計画的に健康・性に関する指導を行う。</p> <p>◇食に関する教育 栄養教諭を中心に「食に関する全体指導計画」に基づき、年間を通して計画的に食と健康に関する指導を行う。</p> <p>◇子どもによる運動機会のアイデア 児童会活動や縦割り活動と連動する中で、運動の機会を増やす取組を柔軟に推進する。子どもの声を聴き実際に形にすることで、自分たちの体力向上や健康的な生活に対する関心を高める。 ※上記の三点を通して、自己を見つめ直す機会を大切にしながら、セルフコントロール力を高める。</p>
--------	--	--	---

家庭・地域との連携・協働

- ・複数の学年でスポーツ選手や助産師などの人材を招き、運動の楽しさや健康、命の大切さ等について多様な角度から学ぶ機会を設ける。
- ・札幌教研春の研究会では、小中パートナー校で「健やかな体部会」を設け、子どもの健康について、教師の学びを深める。